

令和7年度 県立内原特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ◆安全安心な環境のもと、子どもを主語にして学びあえる学校 ◆みんなが子どもの可能性を信じ、学び続ける学校 ◆保護者・地域の人に開かれ、みんなでつくる学校 ◆子ども・保護者・地域の人・教職員みんなが Well-Being になる学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>(成果)</p> <p>○校内でのグランドデザインの共有と課題を対話で解決する良さの実感</p> <p>○校内研修の中で、子どもたちが育つ環境・手立てについて話し合ったことが授業改善につながった。</p> <p>○交流及び共同学習、地域の方の協力による授業づくり、PTA 活動の充実等による「つながり」</p> <p>○「対話」や「心理的安全性」「主体性」の大切さへの気づき</p> <p>○みんなで断捨離対話を実施したことで、当事者意識を高め職場環境の改善を図ることができた。</p> <p>○情報教育係を中心に主体的な研修が行われ、タブレット等 ICT の活用促進が見られた。</p>	<p>1 安全安心な教育環境の整備と心身共に健康な児童生徒の育成</p>	<p>① 人権意識を高め、チーム担任制を意識し、対話を基本に子どもが信頼して安心して学べる学校づくりを目指す。</p> <p>② いじめ・不登校・虐待等への予防的取組と組織的対応の充実を図る。</p> <p>③ 様々な災害を想定し、環境面の充実と児童生徒が主体的に取り組む防災教育の推進を図る。</p> <p>④ 食育（個に応じた摂食指導、食物アレルギー等の適切な対応を含む）やいのちの安全教育を推進</p> <p>⑤ ヒヤリハット事例の検証と事故等の未然防止を徹底する</p>	B
<p>(課題)</p> <p>●全ての児童生徒が主体的に学べる環境の実現</p> <p>●主体的で対話的な業務遂行の文化（学びの相似形）の醸成</p> <p>●学校運営協議会導入の意義や目的の共通理解と社会に開かれた教育課程づくり</p> <p>●考えが対立した場合の対話の難しさ、子どもをみんなで見ていく「開く」意識の醸成</p> <p>●まだ多忙感を抱いている教職員が多いため、引き続きの業務改善見直し。</p> <p>●授業によって活用頻度に差がある。好事例発信不足。主体的な学びに向けての活用</p>	<p>2 これからを生きる子どもに合った学びの充実</p>	<p>① 「対話」を基本に「気づき」や「疑問」を大切に子ども一人一人が主体的な学びを実感できる授業を実践し、学びあう。</p> <p>② 「知識・技能を習得」、「思考・判断・表現等を育成」、「学びに向かう力・人間性を涵養」できる場面を効果的に取り入れた単元の工夫</p> <p>③ 専門家と連携し、自立活動の視点を踏まえて授業を展開する。</p> <p>④ 子どもの主体性を引き出すICT機器の有効活用を推進する。</p> <p>⑤ これからを生きる子どもに合ったキャリア教育の充実と「職業・家庭」「職業」の充実</p>	B
<p>(課題)</p> <p>●全ての児童生徒が主体的に学べる環境の実現</p> <p>●主体的で対話的な業務遂行の文化（学びの相似形）の醸成</p> <p>●学校運営協議会導入の意義や目的の共通理解と社会に開かれた教育課程づくり</p> <p>●考えが対立した場合の対話の難しさ、子どもをみんなで見ていく「開く」意識の醸成</p> <p>●まだ多忙感を抱いている教職員が多いため、引き続きの業務改善見直し。</p> <p>●授業によって活用頻度に差がある。好事例発信不足。主体的な学びに向けての活用</p>	<p>3 共につくる学校・地域社</p>	<p>① 地域資源を活用した（地域の方が活躍、地域に貢献）体験的な学習の充実を図る。（地域が教室） （校外歩行、仕事しらべ、職業見学、職場体験など）</p> <p>② 学びあう、つながる地域交流・学校間交流・居住地校交流等の共同学習を推進する。</p> <p>③ 教育・福祉・医療関係機関との協働的な専門性の深化</p> <p>④ 子どもたちの学びの様子や学校の取り組みが伝わる情報発信の工夫。</p>	B
<p>(課題)</p> <p>●全ての児童生徒が主体的に学べる環境の実現</p> <p>●主体的で対話的な業務遂行の文化（学びの相似形）の醸成</p> <p>●学校運営協議会導入の意義や目的の共通理解と社会に開かれた教育課程づくり</p> <p>●考えが対立した場合の対話の難しさ、子どもをみんなで見ていく「開く」意識の醸成</p> <p>●まだ多忙感を抱いている教職員が多いため、引き続きの業務改善見直し。</p> <p>●授業によって活用頻度に差がある。好事例発信不足。主体的な学びに向けての活用</p>	<p>4 Well-Being をめざして</p>	<p>① 「ありがとう」「やってみよう」「なんとかなる」「ありのままに」の実践から Well-Being を探究</p> <p>② 当事者意識をもった服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成を図る。</p> <p>③ 幸せに働ける心理的安全性のある風通しの良い職場の醸成と、適切なワーク・ライフ・バランスに向けた働き方改革を推進する。</p> <p>④ 大人も子どもも主体的な行動を促し、認め、挑戦する人を応援する支援。失敗したら「やり直し」ができる環境づくり。</p>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	○最上位の目的（誰一人取り残さない教育）・目標を了解した、安全安心で主体的に学べる環境づくり	○単元計画をデザインし、子どもとつくる授業（子どもが主語）を実践する。 ○子どもから学び（様子や背景を学年等でよく把握し、子どもが生き生きする学習内容やグルーピング等を学部・学年で工夫する。	1—①②③ ④⑤ 2—①② ③④⑤	B	○子どもの主体性の伸長や自立活動の課題の改善 ●今までの枠にはまらない子へのかかわり◇子どものニーズや感情に寄り添った、対話と自立活動を重視した学習スタイルの工夫
教職員の 育成及び 指導・監督	○主体的で対話的であることの文化の醸成（学びの相似形）	○研修等での子どもの把握や授業づくりを通して、目的を了解し、職員全員が当事者意識をもち子どもたちが育つ環境について対話を実践。 ○企画会、教務会、学年主任会、学年会、運営委員間、係間連携等活用し、対話にて課題を主体的に解決していく。 ○個別の指導計画や授業づくりにおいて学年等で、グランドデザインに沿って、対話をし、主体的に考え、研修していく。	1—①② ③④⑤ 2—①②③ ④⑤ 4—①② ③④	B	○教員も子どもも学びの相似形であることの気づきの増加 ●対話や自立活動に力を入れられる体制の工夫◇「対話」のスキルの研修、学習サイクル等の工夫
対外活動	○ウェルビーイングを目的にした学校運営協議会を通したつくりたい学校・地域の共有	○学校運営協議会にてウェルビーイングや学校をつくること等について熟議する機会を設け、校内推進委員会にて教職員・保護者・児童生徒・地域の人との共有することを進めていく。 ○ホームページ等で学校の取り組みをグランドデザインとの関連をわかりやすくアウトプット	3—①②③ ④ 4—①② ③④	B	○みんなで学校をつくるメリットの気づき●学校運営協議会に参加していない教職員・保護者・児童生徒とのメリットの共有◇メリットを共有する仕組みづくり
コンプライ アンス確保	○心理的安全性があり、お互い気づいたことを言葉に出せる環境づくり	○気づいた人から笑顔で誰もがありのままに対等に話せる雰囲気や普段から心がける。 ○職員間での対話をする機会を創出し、学校づくりの当事者意識を高めよう。	4—①②③ ④	B	○心理的安全性があることの良さや一人一人みんな違うことへの気づき●気づいても言えないケース◇引き続き人間関係の質の向上を促す工夫
働き方 改革	○教職員一人一人がワーク・ライフ・バランスを意識し、タイムマネジメントをしながら生き生きと働ける環境づくり	○衛生委員会主体で職員からの提案に傾聴し、やめられるもの・できるものはすぐに検討・改善する。 ○幸せの4つの要素を意識し、職員間での対話をする機会を創出し、職員主体で職場づくりの意識を高めよう。	4—①②③ ④	B	○主体的な職場づくり意識の向上●組織や会議等の意図や目的・情報の共有◇組織的な業務遂行の仕方の確認と共有
I C T活用	○主体的に学ぶための ICT 活用（個別最適化：選択肢を増やす）を推進する。	○児童生徒一人一人の状況を把握し、効果的活用事例を校内で情報共有し校外に発信していく。 ○企画文書・研修推進・学習支援部の連携で進めていく。	2—①②③ ④⑤	B	○アプリの効果的な活用の工夫●教材活用情報の共有◇更なる授業事例蓄積・情報交換・教材共有の工夫

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない